

令和 2 年度 西原小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた発達を目指し、自主・自立の精神を養い、日本国民の自覚をもって平和的な国家及び社会の形成者として貢献できる心身ともに健康な子どもを育成する。

〔目指す子ども像〕

- 元気いっぱい活動する子・・・【元気】
- よく考え工夫する子・・・【がんばり】
- 思いやりがあり親切な子・・・【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

西原小は、多くの史跡や文化財に囲まれ、地域人材にも恵まれた地域にあり、創立 110 年の長い歴史の中で地域の人々の熱い思いに支えられ育てられてきた学校である。

このような地域の特性を踏まえるとともに、新学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間力」）を育成するために、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「地域に開かれた信頼される学校づくり」、「知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の実践」、「チームとしての学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進」を経営の基盤に据えて、教職員と家庭、地域が一致協力して確かな学力の育成、心豊かで心身共にたくましい児童の育成を目指す。

〔目指す学校像〕

心豊かでたくましく みんなで育て みんなで育つ 地域の学校づくり ～西原大家族の創造～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全教職員が信頼と協調を基盤とし、互いに高め合う人間関係の中で、学校経営に参画し、活力のある教育活動を推進すると共に、地域学校園における各学校間の連携を深め、小中一貫教育の充実を図る。

- （1）「確かな学力」を育む学習指導の充実・・・・・・・・・・・・・・〔確かな学力〕
- （2）「健康・体力」を育むための健康安全教育の充実・・・・・・・・・・・・・・〔健やかな体〕
- （3）「豊かな心」を育む道徳教育の充実・・・・・・・・・・・・・・〔豊かな心〕
- （4）「自己有用感」を育むキャリア教育の充実・・・・・・・・・・・・・・〔自己有用感〕
- （5）チームとしての学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進・〔組織的な学校づくり〕
- （6）地域に開かれた、信頼される学校づくり・・・・・・・・・・・・・・〔信頼される学校〕
- （7）業務改善と勤務時間を意識した働き方の推進・・・・・・・・・・・・・・〔働き方改革の推進〕

〔一条地域学校園教育ビジョン〕

基本をしっかり身に付け、地域に生きる子供を育む一条地域学校園

4 教育課程編成の方針

- 1 教育基本法、学校教育法及び同施行規則、学習指導要領を踏まえ、栃木県教育委員会の指導の指針、宇都宮市教育委員会の「うつのみや “いきいき学校” プラン」「うつのみや元気っ子プロジェクト」「宇都宮市学校教育スタンダード」の示すところに従い、公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
- 2 教育目標の具現化を図るため、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願いなどを踏まえ、確かな学力と心豊かな児童の育成を目指し、知・徳・体の調和の取れた生きる力を育む教育課程を編成する。
- 3 前年度の教育活動の反省（学校評価）を踏まえ、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成し、自ら学び、自ら考える力の育成と基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上が図れるよう、各教科・特別の教科道徳・特別活動及び総合的な学習の時間・宇都宮学・プログラミング的思考力を育成する学習・外国語活動及び外国語科の特性を生かし、教化横断的な視点に立って教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- 「地域に開かれた信頼される学校づくり」[信頼される学校]
- 「知・徳・体の調和のとれた生きる力を育む教育の実践」[確かな学力, 健やかな体, 豊かな心]
- 「チームとしての学校力を高めるための組織的な学校づくりの推進」[組織的な学校づくり]

【学 習 指 導】

- 響きあい高め合う学習集団づくり ～体育科における主体的・対話的で深い学びを目指して～

【児 童 生 徒 指 導】

- 自らの考えで正しく判断し, 主体的な行動のできる児童の育成
 - ・お互いを認め合い, 尊重し合える人間関係の確立

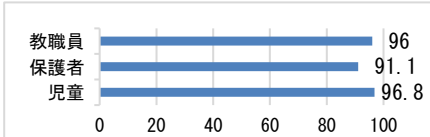
【健康（体力・保健・食・安全）】

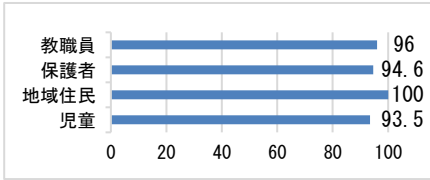
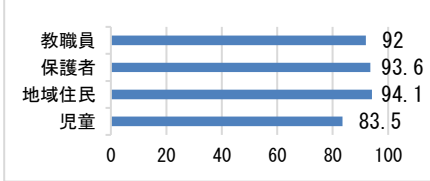
- ・進んで健康・体力の向上に努める子どもの育成

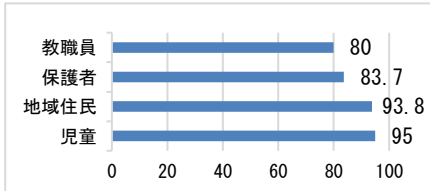
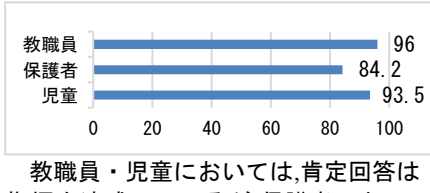
6 自己評価（評価項目のAは市共通, Bは学校独自を示す。）

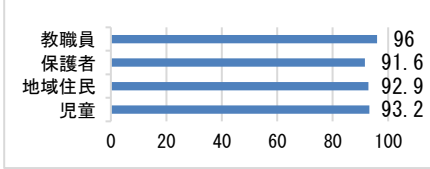
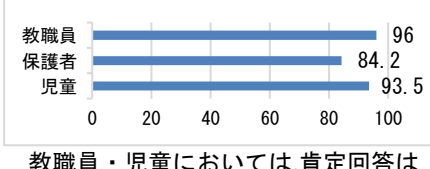
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

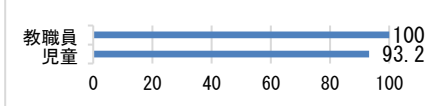
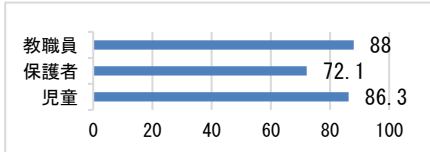
※「主な具体的な取組」の方向性には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入する。

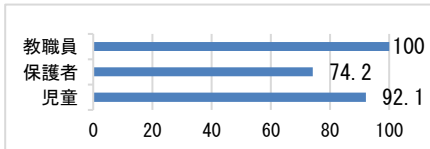
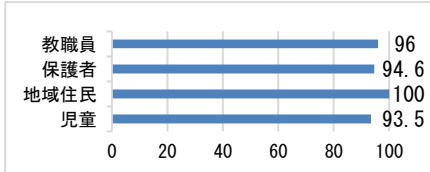
項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
目指す児童の	A 1 児童は, 進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は, 授業中, 話をしっかりと聞いたり, 発表したりするなど進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童一人一人が主体的に授業に参加し, 自分の考えをもって学習が進められるように授業の展開を工夫する。 ②児童が互いの意見を交流させることができる場の設定を意図的に設定する。 ③「学習の約束」の指導を徹底することで, 聞き方や話し方の基本を身に付けさせる。	B	【達成状況】  <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>達成率 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>教職員</td><td>96</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.8</td></tr></tbody></table> すべての対象において, 肯定回答は指標を達成し, 教職員・児童においては, 6ポイント上回る。 ①今年度は学校課題として「響き合い高め合う学習集団づくりの素地を養う」に取り組み, 主として体育科における主体的に取り組み, 進んで学び続けていく児童の育成を目指して授業の実践を図ることができた。 ②コロナウイルス感染症予防対策をしながら話し合う場の工夫が必要となった。 ③基本的な学習態度や学習技能の定着を指導することはできたが, 定着に個人差が見られた。個別の支援も必要であった。 【次年度の方針】 ソーシャルディスタンスに配慮しつつ, 児童が互いの意見を交流させることができる場や形態(ペア・グループなど)を工夫したり, 意図的に設定したりして児童が主体的に学習に取り組めるようにしていく。	対象	達成率 (%)	教職員	96	保護者	91.1	児童	96.8
	対象	達成率 (%)										
教職員	96											
保護者	91.1											
児童	96.8											

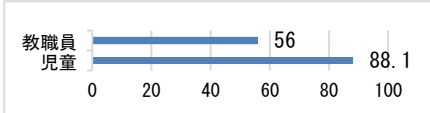
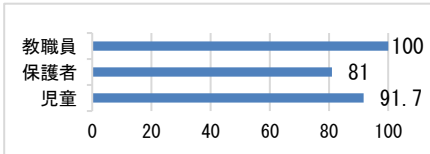
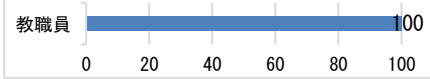
姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学校生活全般にわたり、他者に対して優しく接する行動や思いやりのある行動が見られる児童を賞賛するとともに、すべての教育活動の場で支援・指導する。 ②特別の教科道德の充実を図る。	B 【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、地域住民においては、100%である。 ①「優しさ」や「おもいやり」の基盤となる人権感覚を醸成するために、学級経営を中心にしながら、支援・指導を行うことができた。 ②掲示資料や発問を工夫することによって、児童が自らの考えを深めることができる授業が実践できた。 【次年度の方針】 全学級一斉の道德の授業参観を行い、保護者への啓蒙にも努めていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活をしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①「学習の約束」や「西原小よい子の約束」の指導徹底を図るとともに、児童自身が自分の生活を振り返り、規範意識を高める機会を定期的に設ける。 ②生活当番活動を通して、日常生活の様子を把握し、校内の巡視等を行うとともに、実生活の場で直接指導する。	A 【達成状況】  教職員・保護者・地域住民においては、肯定回答は指標を上回るが、児童においては、指標を5ポイント以上下回る。 ①新しい生活様式のための新たなルールが追加され、児童にも戸惑いが見られた。 ②全職員の共通理解のもとで、ぶれのない一貫した指導や声かけを行うことを心がけた。 【次年度の方針】 きまりを守る意識を高めるため、生活当番による休み時間等の巡視を強化し、結果を共有できる場を設け指導に生かす。

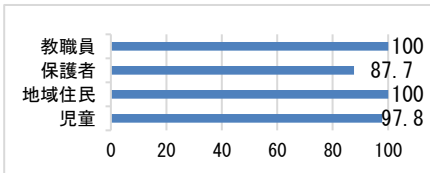
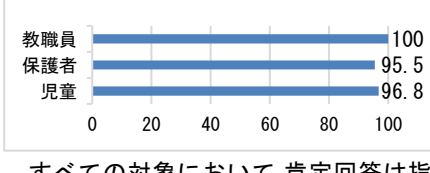
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①児童会活動を中心とした「朝のあいさつ運動」や「地域学校園あいさつ運動」を実施する。 ②日常的に「こんにちは」「ありがとうございます」等のあいさつが自ら進んでできるよう、教職員から積極的に声かけを行う。 ③来校者や地域の方たちへのあいさつについて、具体的に指導していくとともに、機会を捉えて保護者や地域にも協力を呼びかける。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>80</td></tr><tr><td>保護者</td><td>83.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>93.8</td></tr><tr><td>児童</td><td>95</td></tr></table> 地域住民・児童においては、肯定回答は指標を達成しているが、教職員・保護者においては、指標を 10 ポイント近く下回る。 ①コロナウイルス感染症予防のため計画を工夫したり、変更したりしながら「あいさつ運動」を実施した。 ②校内では気持ちのよい挨拶ができるようになってきている。保護者や地域住民から情報を得ながら、挨拶の定着を推進する。 【次年度の方針】 校外でも挨拶がしっかりできるように、児童会が呼びかけるなどして意識を高めていく。	教職員	80	保護者	83.7	地域住民	93.8	児童	95
教職員	80									
保護者	83.7									
地域住民	93.8									
児童	95									
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①校長表彰や各種表彰の機会を生かし、児童一人一人のよさを認めることで、活動意欲を喚起する。 ②児童一人一人に明確な目標をもたせ、随時振り返らせることで、継続して取り組んでいけるよう支援する。 ③児童が頑張る様子を各種たより等で保護者に伝えることで、家庭との連携強化を図る。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>96</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.2</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.5</td></tr></table> 教職員・児童においては、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を 5 ポイント以上下回り、教職員と 12 ポイントの差がある。 ①年に 4 回実施している校長表彰では、年間の目標を予め示すことによって、活動意欲を高めることができた。 ②教育活動全体をとおして、それぞれの取組のねらいを丁寧に伝えたことによって、児童一人一人が自分の目標を明確にした上で活動することができた。 ③校長表彰の様子を保護者に参観してもらうことができなかった。保護者に伝える工夫を考え、学校の取組を理解してもらえるよう努めることが必要。 【次年度の方針】 夏休み前に記入する自己評価シートやキャリアパスポートなどを活用して、児童が頑張っている様子や努力の成果が保護者に伝わるようにしていく。	教職員	96	保護者	84.2	児童	93.5		
教職員	96									
保護者	84.2									
児童	93.5									

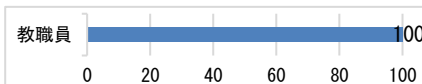
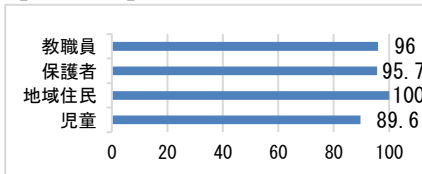
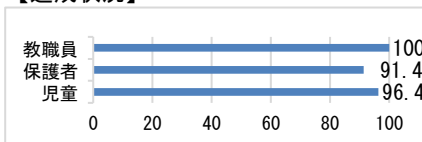
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童一人一人の安全に対する意識が高められるよう、具体的な場面での安全指導を充実させる。 ②定期健康診断の結果を活用し、自分の体や健康に関心をもたせる。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、指標を 6 ポイント上回る。 ①児童指導と連携し「西原小よい子の約束」や「校庭での遊び方」をもとに、時と場に応じた指導ができた。また、避難訓練や交通安全教室等の行事を通して、緊急時や日常生活の中で、常に安全に気を付けて生活できるよう指導を行った。 ②保護者と連携し、定期健康診断や元気っ子生活習慣チェックの結果を活用し、自分の体やよりよい生活習慣についての意識が高まるよう努めた。また食の指導を通して健康への関心を高めることが出来た。 【次年度の方針】 ①定期健康診断や元気っ子生活習慣チェックの結果を活用するとともに、食の指導の充実を図り、自分の体や健康についての関心や意識が高まるようにする。 ②安全な生活ができるよう指導を行うとともに、校外で安全な生活を送ることが出来るよう、学校行事等を通して、さらに指導の充実を図る。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 ・全体アンケート「私（児童）は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①年間を通した地域の行事等の周知に努め、地域の関係団体との連携を図りながら、地域行事への参加を呼びかけ、地域の一員としての自覚を高めるよう、支援する。 ②教職員が地域関連行事に積極的に参加することにより、児童の地域活動への参加を促す。 ③地域の行事の振り返りを各種たより等で紹介して、児童が夢や目標をもって社会に貢献しようとしている意思が保護者に伝わるようにする。	【達成状況】  教職員・児童においては、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、指標を 5 ポイント以上下回り、教職員と 12 ポイントの差がある。 ①②③コロナウイルス感染症予防対策のため、年間を通して地域行事が開催できなかったが、新川清掃を教職員と 5・6 年児童で実施し、地域の一員としての自覚を高めるよう、支援した。 【次年度の方針】 コロナウイルス感染症予防対策を講じた上で、高学年以外でも地域清掃に参加させたり、道徳の内容項目「国や郷土を愛する態度」の題材について取り組んだものを持ち帰らせたりする。 地域の行事の振り返りを各種たよりやホームページで提示できるようにする。

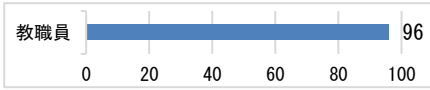
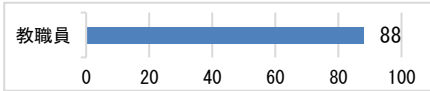
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①英語の単語やフレーズに慣れ親しませるために、意図的に日常生活の中で使うようにする。 ②校内研修にALTとの英会話研修の時間を確保し、教職員の英語力向上を図る。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.2</td></tr></table> 教職員・児童において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 ①ALTとも連携を取り、学年間で授業の構成を十分検討し、授業を実践することができ、ALTの効果的な活用が図れた。 ②定期的な英会話研修の時間の確保が難しく、教職員の英語力向上に至らなかった。 【次年度の方針】 主な具体的な取り組みは今年度と同様の①、②を行い、児童の英語でのコミュニケーション能力の向上を図っていく。	対象	達成率	教職員	100	児童	93.2		
対象	達成率									
教職員	100									
児童	93.2									
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「私（児童）は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①歴史的な文化財や史跡が点在する自分の学区に興味をもたせ、宇都宮のよさに気付かせる。 ②視点を「西原」から「宇都宮」に広げ、郷土の歴史や文化への興味・関心を高めるように努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>88</td></tr><tr><td>保護者</td><td>72.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>86.3</td></tr></table> 教職員・児童において、肯定回答は指標を達成しているが、保護者においては、教職員と16ポイントの差がある。 ①「にしはらふるさとウォークラリー」の活動を通して、身近にある文化財や史跡について学ぶことができた。 ②5・6年生においては、「宇都宮学」を適切に取り組むことができた。6年生では、黄ぶなの絵付けの体験活動を取り入れ実施できた。 【次年度の方針】 「宇都宮学」を活用し、郷土の歴史や文化への興味・関心を高めるように努める。	対象	達成率	教職員	88	保護者	72.1	児童	86.3
対象	達成率									
教職員	88									
保護者	72.1									
児童	86.3									

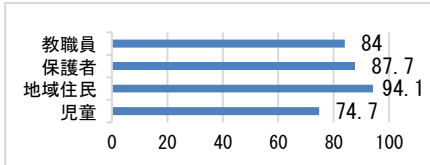
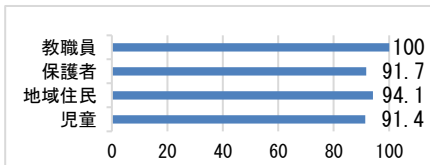
A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学習場面に合わせてパソコンやタブレット等のI C T機器や図書等を学習に効果的に活用する。 ②学校図書館司書業務嘱託員と連携し、学習に関連する図書の紹介と図書館の利用喚起を図る。 ③プログラミング教育に積極的に取り組み、児童の理解を図る。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.2</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.1</td></tr></table> 教職員・児童において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。保護者においては、教職員と25ポイントの差がある。 ①パソコンやタブレットの効果的な活用に取り組み、学びポケットの使い方の学習を全学年で行った。 ②学校図書館司書業務嘱託員と連携を図りながら、南図書館なども活用し、教科や単元に合わせた図書を活用することができた。 ③プログラミング教育の教職員研修を実施し、積極的な取り組みに努めた。 【次年度の方針】 ①I C T機器や図書等の効果的な活用を図り、学年だよりなどで保護者に発信していく。 ②中学年以上には本の分類表を指導し、図書館の利用を推進する。	教職員	100	保護者	74.2	児童	92.1		
教職員	100									
保護者	74.2									
児童	92.1									
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①地域の高齢者の方々に学習支援や行事等への参加を呼びかけ、交流する場を設ける。 ②日々の教育活動全般を通して、他者を思いやる気持ちの醸成に努める。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>96</td></tr><tr><td>保護者</td><td>94.6</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>93.5</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、地域住民においては、100%である。 ①コロナウイルス感染症予防のため交流する場を設けることができなかったが、運動会での地域の方々への「感謝の言葉」を地域に回覧していただき伝えることができた。 ②思いやりのある言動がとれるよう、日々の生活の場で声をかけたり、必要に応じて指導したりすることができた。 【次年度の方針】 主な具体的な取り組みは今年度と同様の①、②を行い、高齢者への感謝やいたわりの心の育成に取り組んでいく。	教職員	96	保護者	94.6	地域住民	100	児童	93.5
教職員	96									
保護者	94.6									
地域住民	100									
児童	93.5									

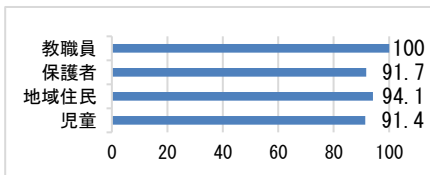
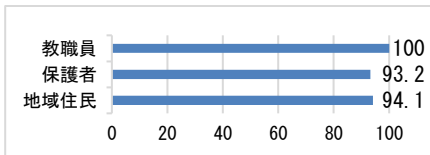
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①環境問題を教科横断的に捉え、日常生活と深く結びついていることに気付かせるとともに、日常の具体的な行動に結び付けられるよう、働きかける。 ②研修を行い、教師が率先して取り組めるようにする。	【達成状況】  児童において、肯定回答は指標を達成しているが、教職員においては、指標を29ポイント下回る。 ①②教職員がSDGsについて研修することができたが、教育現場でできる具体的な行動について共通理解を図り、年間指導計画に位置付けるなどして、教師が率先して取り組めるようにしていく必要がある。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため、SDGsについての掲示物を各教室に掲示し、普段の活動での振り返り等に活用する。
	B1 児童は、自分の考えが深まり、学びの実感が得られるノートづくりをめざしている。 【数値目標】 ・全体アンケート「私（児童）は、授業中大切なことや自分の考えをノートに書いている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童が自分の考えをうまく表せるよう授業の展開や指導方法を工夫している。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①思考の変容が見える板書を工夫したり、お互いの考えを交流させたりする活動などを取り入れながら考える力を伸ばす。 ②思考を深めたり、学びを蓄積したりするノートづくりへの支援に努め、児童が自らの学びを実感できるような振り返り活動を充実させる。	【達成状況】  教職員・児童において肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。保護者においては、教職員と19ポイントの差がある。 ①学習の流れが分かる板書を工夫したり、思考力が深まるような活動の場を設定したりできた。 ②主要教科のノート指導だけでなく、体育科の授業のノート指導についても、教科主任の実践を参考に工夫していくことができた。 【次年度の方針】 授業参観などを利用して、授業への取り組みを保護者に知らせていく。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童の実態を的確に捉え、全教職員が共通理解を図る場を適宜設定する。 ②短期的な目標、中期的な目標の共有を図るとともに、保護者、SC、関係機関と連携しながら、一貫性のある支援ができるよう、工夫する。	【達成状況】  教職員において、肯定回答は100%で指標を達成している。 ①児童の実態を定期的に確認する場を設定することで、特別な支援を必要とする児童を確認し、支援の方向性を見出すことができた。 ②迅速なケース会議や支援委員会を実施し、見通しをもった一貫性のある支援を行うことができた。 【次年度の方針】 ①、②を引き続き行うとともに、ケース会議・支援委員会をさらに充実させ、関係機関と連携を図っていく。

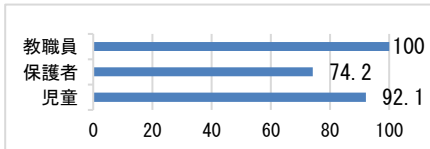
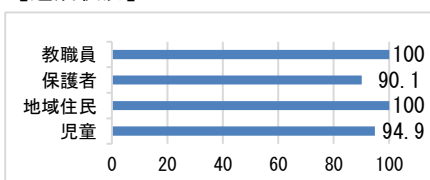
A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①「西原小学校いじめ防止基本方針」について共通理解を図り、教職員は児童理解を深め、信頼関係の構築に努める。 ②「いじめゼロ強化月間」を設定し、児童会を中心とした児童主体の取組を行うとともに、授業や生活のあらゆる場面をとらえていじめを許さない態度や実践力を育て、活動の様子を保護者に積極的に伝えていく。 ③児童や保護者からの相談に誠意をもって対応するとともに、指導の記録を残す。	【達成状況】  教職員・地域住民・児童において、肯定回答は指標を達成し、教職員と地域住民においては、100%である。保護者においては、指標を3ポイント下回る。 ①いじめが許されない行為であることは、十分理解され、児童理解に努めながら時と場に応じた指導が図られた。 ②児童の目線で企画された動画作成・視聴は分かりやすく、意識の高揚に結び付いた。 ③日頃の支援や指導の様子を必要に応じて保護者に連絡した。学校がいじめ防止のために積極的に取り組んでいることを伝えることができた。 【次年度の方針】 教職員が児童の様子をしっかりと見取り、いじめの早期発見に努める。学級活動や道徳科を通して指導の充実に努め、指導の内容等を保護者に伝えていく。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①学校として組織的な不登校対応について共通理解を図るとともに、児童の実態や家庭環境等を十分把握した上で、個に応じた支援や指導を行う。 ②児童一人一人が「居がいい」を感じる学級づくりを基本としながら、さまざまな活動の中で、成就感や満足感を味わうことができるような学級経営を推進する。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 ①日々の生活の様子や欠席状況等から不登校の兆候を素早く見極め、個に応じて支援を行うとともに、保護者との関係を密にすることができた。 ②児童一人一人の実態に合わせた支援を行ってきた。自己肯定感や自己有用感を味わえる学級経営を推進することができた。 【次年度の方針】 引き続き①、②を行うとともに、ケース会議を適切に開き組織的に支援を行っていく。

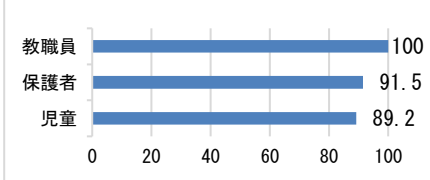
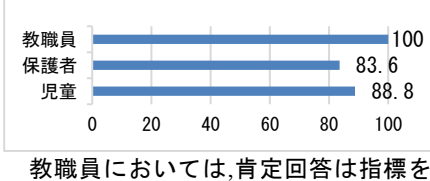
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 ・全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童の実態を的確に捉え、日本語指導講師やボランティアと連携しながら、当該児童や保護者への計画的・継続的支援に努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr></table> 教職員において、肯定回答は 100%で指標を達成している。 ①年間を通して関係児童への支援を継続して実施することができた。 【次年度の方針】 今年度と同様に、保護者と連携を図りながら、児童の支援を継続していく。	対象	達成率	教職員	100						
対象	達成率											
教職員	100											
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 ・全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①校長表彰の機会を活用するなど、児童一人一人の頑張りやよさを認めたり、善行を奨励したりする場を設定し、認め励ます教育を推進する。 ②多くの児童が認められ活躍できる機会を増やし、特別活動を中心に児童が生き生きと主体的に活動し、楽しく学べるようにする。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>96</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>89.6</td></tr></table> 教職員・保護者・地域住民においては、肯定回答は指標を達成し、地域住民においては、100%である。児童においては、指標を 0.4 ポイント下回る。 ①各種の表彰（校長表彰を含む）の動画を学級で視聴し、全体に知らしめる機会を定期的に設定することができた。児童の活躍を賞賛し認め励ます教育を推進することができた。 ②学級活動や児童会活動等を通して、児童一人一人が自分のよさを発揮できる場を意図的に設定することができた。 【次年度の方針】 新しい生活様式の中でも児童が活躍する機会を与え、居心地の良い学校生活と児童が感じるよう、活動内容を工夫する。	対象	達成率	教職員	96	保護者	95.7	地域住民	100	児童	89.6
対象	達成率											
教職員	96											
保護者	95.7											
地域住民	100											
児童	89.6											
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学力調査に基づいた基礎基本の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的な学習の展開と発問の工夫及び振り返り活動の充実に努める。 ②発達段階や個性に応じた学習支援を大切にし、家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を目指す。 ③教職員が連携し、学年間で定期的に教科指導の在り方や教材研究について話し合う機会を設け、よりきめ細やかな指導を目指す。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.4</td></tr><tr><td>児童</td><td>96.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては 100%である。 ①学習のめあての明示、発問の工夫、振り返り活動の充実に等により、分かる授業を実践することができた。 ②個に応じた学習支援の充実に向けて、担任と連携し、習熟度別学習やかがやきルームでの個別支援を計画的に進めることができた。 ③学年間で常に教科指導や教材研究について話し合い、連携を取って指導を進めることができた。 【次年度の方針】 主な具体的な取り組みは今年度と同様の①、②、③を行い、学力向上を図っていく。	対象	達成率	教職員	100	保護者	91.4	児童	96.4		
対象	達成率											
教職員	100											
保護者	91.4											
児童	96.4											

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①職員全員が、それぞれの立場で積極的に児童と関わりながら、各自の専門性を生かして職務を遂行する。 ②かがやきルーム指導員、学校図書館司書、学校栄養士、学校業務員等、それぞれの勤務形態の可能な範囲で、児童会活動や職員研修等への参加を呼びかけ、「チーム学校」を推進する。	【達成状況】  教職員 96 教職員においては、肯定回答は指標を達成している。 ①教職員が各自の専門性や持ち味を生かしながら分掌事務に取り組み、相互に補完しながら組織力を高めることができた。 ②それぞれの立場から、その専門性を生かしながら学校教育に積極的に関わり、チーム学校の推進に努めることができた。 【次年度の方針】 組織の系統性を意識し、報告・連絡・相談を積極的に行う。また、各校務分掌の主務者は中心になって関係職員との連携を十分に図る。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①学校図書館司書、かがやきルーム指導員、学校栄養士、ALT等の専門性を生かした校務の分担を工夫する。 ②勤務時間の自己管理を通して、勤務時間を意識した働き方に努めるとともに、定時退勤や年休取得を進め、働き方に対する意識の変革を図る。 ③業務内容の精選・重点化を図り業務の縮減に努める。	【達成状況】  教職員 88 教職員においては、肯定回答は指標を2ポイント下回る。 ①図書館指導、学習指導、給食指導等において、必要に応じて専門の立場を生かしながら、校務運営にかかわり、校務の縮減を進めることができた。 ②③勤務時間を意識した働き方は、徐々に実践されているものの、業務内容の縮減には引き続き取り組んでいく必要がある。 【次年度の方針】 業務内容の縮減が可能な学校行事を見直したり、月に1回以上のリフレッシュデーを各自設定し、実行したりする。

A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上	①地域学校園一体となったあいさつ運動を展開する。 ②情報モラル教育に対して共通理解のもと保護者への啓発を行う。 ③地域学校園お弁当の日の実施や投げる力や走力アップへの取組、低視力対策などを連携して行い、地域や保護者にその情報を発信する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>数値</th></tr><tr><td>教職員</td><td>84</td></tr><tr><td>保護者</td><td>87.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>74.7</td></tr></table> 地域住民においては、肯定回答は指標を達成している。保護者においては、指標を3ポイント下回る。 ①コロナウイルス感染症予防のため、今年度は地域学校園合同のあいさつ運動を実施することができなかった。 ②ノースマホデーの実施について、小中連携して取り組むことができた。 ③給食指導や図書館教育に関しては、小中合同の取り組みが見られた。また、体育における各種の頑張りカードを共有することができた。 【次年度の方針】 保護者や児童に「小中一貫教育・地域学校園」の取組を周知し、地域学校園を意識させる。	対象	数値	教職員	84	保護者	87.7	地域住民	94.1	児童	74.7
対象	数値											
教職員	84											
保護者	87.7											
地域住民	94.1											
児童	74.7											
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①年間計画に位置付けて、地域の人材・教材・施設等の地域の教育資源を有効に生かし、地域と共に育つ学習の充実に努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>数値</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答が指標を達成し、教職員においては、100%である。 ①各教科や生活科・総合の学習の中で、地域の教材・施設等を有効に活用し、特色ある教育活動を展開することができた。一方でコロナウイルス感染症予防のため、積極的な地域人材の活用ができなかった。 【次年度の方針】 コロナウイルス感染症予防対策を取って実施可能な活動を工夫しながら行い、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開を図っていく。	対象	数値	教職員	100	保護者	91.7	地域住民	94.1	児童	91.4
対象	数値											
教職員	100											
保護者	91.7											
地域住民	94.1											
児童	91.4											

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①保護者やサポーター会議（魅力ある学校づくり地域協議会）、地域団体等と連携を図り、地域に開かれた学校づくりに努める。 ②教職員が積極的に地域の行事に参加し、相互理解が深まるよう努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>91.7</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.1</td></tr><tr><td>児童</td><td>91.4</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答が指標を達成し、教職員においては、100%である。 ①②コロナウイルス感染症予防のため地域行事や学校行事の実施がなくなりながらも、学校便りの配付などを通して学校・家庭・地域の関係の構築に努め、連携を図ることができた。 PTA のトイレ掃除ボランティアや地域の有志による全校児童分の手作りマスクの寄贈など「子供のために」と考えた取り組みで協力いただいた。 【次年度の方針】 ①②の具体的な取り組みを行い家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいく。	対象	達成率	教職員	100	保護者	91.7	地域住民	94.1	児童	91.4
対象	達成率											
教職員	100											
保護者	91.7											
地域住民	94.1											
児童	91.4											
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 ・全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①日常的に施設設備の安全に目を配り、修繕が必要な場合は迅速に対応する。 ②定期的に安全点検を実施するほか、生活当番を中心として日常の校内巡視を行い、安心して生活できる環境づくりに努める。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>93.2</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>94.1</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答が指標を達成し、教職員においては、100%である。 ①校舎の老朽化が進み、修繕を必要とする箇所が多数あったが、その都度、可能な範囲で修繕することができた。 ②生活当番を中心に校内の見回り等を行い、児童が安全な生活を送ることが出来るよう努めた。教室や学習室、特別教室等の物品管理や整理整頓については改善の必要がある。 【次年度の方針】 ①定期的に安全点検を実施し、学校内の施設設備の安全に目を配り、修繕が必要な場合は迅速に対応する。 ②校内施設の担当者や使用者は、普段から物品管理、整理整頓を行い、安全で安心できる環境づくりに努める。	対象	達成率	教職員	100	保護者	93.2	地域住民	94.1		
対象	達成率											
教職員	100											
保護者	93.2											
地域住民	94.1											

A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 ・全体アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①大型テレビやパソコン、タブレット等の有効活用に努め、児童がＩＣＴ機器に触れる機会を多く持てるようにしたり、学習指導に役立てたりする。 ②計画的に図書・教材等選定委員会を開き、分類ごとの過不足や利用状況等をもとに、図書室の利便性を高める手立てを検討する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象者</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.2</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.1</td></tr></table> 児童・教職員において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。保護者においては、指標を15ポイント以上下回り、教職員との差が25ポイントに及ぶ。 ①大型テレビは日常的に活用できた。パソコンやタブレットの活用も積極的に進めている。今後も効率的な活用に努めていく。 ②児童の実態を参考にしながら、購入図書の選定を行うことができた。コロナ禍の影響で、調べ学習など児童が自由に図書室を使える時間を確保するのが難しかった。 【次年度の方針】 GIGAスクール構想について保護者への周知に努めたり、環境整備や児童のスキル向上を目指したりする。図書については、基準値をもとに計画的に補充し、学習に活用しやすいようにする。	対象者	達成率 (%)	教職員	100	保護者	74.2	児童	92.1		
対象者	達成率 (%)											
教職員	100											
保護者	74.2											
児童	92.1											
B2 学校は、楽しく学べる地域とともにある学校づくりに努めている。 【数値目標】 ・全体アンケート「先生は、地域の人と協力しながら、楽しい学校になるように工夫している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「学校は、家庭・地域と信頼関係を築きながら活動のめあてを明確にして教育活動を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上	①うつのみやオープンスクールをはじめ、学校公開（授業参観や集会活動、学校行事等）の機会を充実させ、地域とともに歩む「地域の学校づくり」の取組を参観してもらう機会を設ける。 ②学習内容や学校での諸活動の様子を、定期的に各種便りやHPなどを通して、保護者や地域に対し分かりやすく情報発信し、本校の教育活動への理解を促進する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象者</th><th>達成率 (%)</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>90.1</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>94.9</td></tr></table> すべての対象者において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民においては100%である。 ①コロナウイルス感染症予防のため、積極的な学校公開の機会を設けることができなかったが、家庭や地域と連携し教育活動を実践することができた。 ②学校だよりやHP等を通して、多くの情報を公開し、本校の教育活動への理解が深まるよう努めることができた。 【次年度の方針】 学校だよりやHP等を通して、多くの情報を公開し、本校の教育活動への理解が深まるよう努める。	対象者	達成率 (%)	教職員	100	保護者	90.1	地域住民	100	児童	94.9
対象者	達成率 (%)											
教職員	100											
保護者	90.1											
地域住民	100											
児童	94.9											

本校の特色・課題等	B3 児童自ら判断し、主体的に取り組むことができる活動の充実に努めている。 【数値目標】 ・全体アンケート「私（児童）は、自分で判断し工夫して学校行事や係活動などに取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童自ら判断し活動できるような場の設定や支援を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①活動の目的をきちんと捉えさせ、自分の活動をイメージさせた上で、より具体的に自分のめあてをもたせる。 ②児童が自ら計画・実践できる機会を増やし、より主体的に活動できるように支援する。	【達成状況】  教職員・保護者においては、肯定回答は指標を達成したが、児童においては、指標を0.8ポイント下回る。 ①それぞれの活動のゴールがどこかを分かりやすく伝えることで、自分なりに見通しをもって活動させることができた。 ②児童自らが計画・実践できる場面を設け、一人一人が自分で考えながら活動できるよう促すことができた。 【次年度の方針】 授業や各学級の係活動などにおいて、主体的に取り組んだり工夫したりする場を意図的に設定し、活動を一層充実させていく。
	B4 児童は目標をもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。 【数値目標】 ・全体アンケート「私（児童）は、めあてをもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ・全体アンケート「教職員は、児童の健康や体力の向上のための活動を工夫して行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①児童一人一人の状況を把握した上で、保健指導や体育の授業の充実を図り、自分の健康や体力に関心をもたせる。 ②委員会が主催する体育的イベントへの積極的参加を促し、運動の日常化を図る。	【達成状況】  教職員においては、肯定回答は指標を達成し、100%である。保護者・児童においては、指標を下回る。 ①体育ノートや学校園で作成したがんばりカードを活用することによって、自分に合った目標設定や活動の振り返りを確実に行うことができた。 ②コロナウイルス感染症予防のため、休み時間の運動の仕方にも制限があり、イベントを開催することが難しかった。制限の中にも、運動の日常化を図れる工夫をしていく。 【次年度の方針】 ①児童一人一人が目当てをもち、学びを工夫しながら、自ら積み重ねを感じられるような保健体育の授業の充実を図る。 ②運動の日常化を図るため、外遊びの徹底と委員会による体育的イベントの企画等、業間運動の内容の工夫を図る。 ③児童が目当てをもって体育的行事や体力チェックに取り組めるよう指導の充実を図る。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

◎肯定的回答率が複数の指標を上回り、良好と考えられる項目

- A 1 「児童は、進んで学習に取り組んでいる」
- A 2 「児童は、思いやりの心をもっている」
- A 6 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」
- A 8 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」
- A 11 「児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている」
- A 13 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」
- A 15 「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」
- A 16 「教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている」
- A 17 「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」
- A 18 「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」
- A 19 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」
- A 22 「学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」
- A 23 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる」
- A 24 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」
- B 1 「自分の考えが深まり、学びの実感が得られるノートづくりをめざし、授業の改善に努めている」
- B 2 「学校は、楽しく学べる地域とともにある学校に努めている」

◎肯定的回答率が複数の指標を下回り、今後の課題と考えられる項目

- | | |
|--|-----------------|
| A 03 「児童は、きまりやマナーを守って、生活している」 | (児 童 -6.5 ポイント) |
| A 04 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 | (保護者 -6.3 ポイント) |
| A 05 「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 | (保護者 -0.8 ポイント) |
| A 07 「児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している」 | (保護者 -0.8 ポイント) |
| A 12 「児童は、持続可能な社会について関心をもっている」 | (教職員 -29 ポイント) |
| A 14 「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」 | (保護者 -2.8 ポイント) |
| A 20 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 | (教職員 -2.0 ポイント) |
| A 21 「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 | (保護者 -2.3 ポイント) |
| B 03 「児童自ら判断し、主体的に取り組むことができる活動の充実」に努めている | (児 童 -0.8 ポイント) |
| B 04 「児童は、目標をもって自分の健康や体力の向上に進んで取り組んでいる」 | (児 童 -1.2 ポイント) |

1 学校運営について

本年度は、コロナウイルス感染症予防実施のため、本校の特色である地域とともにある学校の具現化を進めることが難しかった。「西原大家族」という意識を常にもち、教職員・児童は「新しい生活様式」に沿って生活をしてしたが、昨年と同じような地域と一体となった教育活動の取組はできず残念であった。

しかし、こうした状況の中、保護者や地域の方々には、登下校の見守りやトイレ清掃など「学校や子供のためにできること」を考え実践していただいた。また、学校では、感染予防対策を考えながら、「ふるさとウォークラリー」や「新川清掃」などの教育活動を実施する中で、自分たちを支えてくれている地域に対する児童の感謝の気持ちを醸成することができた。

すべての児童への楽しい学びの場の創出では、分かる授業やきめ細かな指導により、学習意欲の向上が見られたが、いじめへの対応はまだ十分とはいえなかった。早期発見・早期対応というまでもないが、いじめを生まない環境づくり、人権意識の高揚や人権感覚の醸成が急務である。

働き方改革への取り組みについては、働き方への意識改革は進められたが、新しい生活様式への対応など新たな業務が増え改善に至らなかった。業務のスリム化や効率化をさらに進め、業務量の削減と質の向上に努めていきたい。

2 学習指導について

本年度は、コロナウイルス感染症対策のため、学習活動において、グループ活動の制限や、教科によっては、学習活動そのものが制限されてしまったものもある。そんな中でも、知識や技能のみの習得に偏らないよう、学習形態を工夫したり、振り返りの活動を充実させたりしながら、児童自らが主体的に課題解決に取り組み、自分の考えを深めることができるよう工夫してきた。特に体育科の学習では、「響き合い、高め合う集団づくりの素地を養う」として、研修を進め、個の学びを学級集団へ広め、互いに認め合いながら学習に取り組めるように工夫した。その成果が A 18 や B 1 の結果に見られるように

児童の肯定的回答率が指標を上回った。来年度も引き続き、「楽しい授業・分かる授業・考える授業」の実践に向け、学校課題と関連付けながら校内研修の充実を図っていく。また、より学習効果が上がるＩＣＴ機器や図書の活用についても積極的に取り組んでいくようにする。

3 児童指導について

きまりやマナーを守るという規範意識は、児童の肯定回答が下回り、昨年度よりも下がっている。具体的な生活場面での直接的な指導の充実を図るとともに、繰り返しの指導が必要である。また、道徳の授業を中心に教育活動全体で心を育てることに重点を置いて取り組んでいきたい。さらに、教職員一人一人の人権感覚を高め、人権意識の向上を図るために、職員の研修を充実させたり、児童の呼称に「さん」付けの励行をしたりして、全職員共通して取り組んでいく必要がある。

4 体力・健康について

本年度は、コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用や運動制限などから、児童は、思うように運動することができなかったと思われる。Ｂ４の結果にみられるように児童の肯定回答が指標を下回った。教科体育においては、ノートやカードタブレットを活用することによって、自分の活動を振り返る機会を得ることができた。それは、単なる運動技能の向上だけではなく、自分自身の技能の伸びを実感したり、それぞれの運動がもつ特性にふれたりできる機会の創出に結び付いた。運動の楽しさを実感させることによって、生涯体育の基礎づくりを進めていきたい。また、保健学習の充実を図り、健康に生きるための規則正しい生活の必要性に気づいたり、自分の体についての関心を高めたりして、健康に生きる意欲を高めていきたい。

7 学校関係者評価

- 1 今年度は例年の行事ができず残念だったが、子供たちや教職員が日々取り組む様子を学校便り等で知ることができた。
- 2 今年度は、運動会などの学校行事の地域公開がなく、学校の様子がよくわからなかった。地域とともにある開かれた学校の具現化を進めることが難しい１年だった。
- 3 2か月の休校があり、例年と同じ活動をするのがとても困難であった中、教職員の工夫により様々な活動が今までと違うかたちでできたことが素晴らしかった。例年通りにできることのありがたさを感じた。
- 4 感染症予防対策のために、先生と児童と向き合う時間が奪われた感じがある。その中で児童が元気に登校できたことは、教職員の努力の結果である。令和3年度も不自由な局面があったり、ＧＩＧＡスクール構想（ＩＣＴ活用教育）も始まったりすると思うが、優しい心を育み伸ばすことにも力を入れてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 1 学校運営面
 - ・地域とともにある開かれた学校づくりを重点目標とし、サポーター会議や一条地域学校園と連携を図りながら、「西原大家族」の創造に向けて、活動の目的を明確にしながら学校運営を進めていく。
 - ・保護者や地域の声を学校運営に積極的に反映させるとともに、さまざまな機会を生かしながら、情報の発信に努めることで、双方向の関係を構築する。
- 2 学習面
 - ・今年度は、「響き合い、高め合う学習集団づくり」を学習指導の課題とし、体育科における主体的・対話的で深い学びの実現を目指して校内研修を進めた。今後も日々の実践と評価を継続的に行うことによって、他の教科や領域においても主体的・対話的で深い学びの実現に結び付くようにする。
- 3 児童指導面
 - ・いじめや不登校の根絶に向けて、連絡・相談・報告の機能をより強化し、未然防止の手立てや早期発見、早期対応、継続的な支援について学校全体で組織的・計画的に取り組んでいく。また、関係機関との連携のもとで、様々な支援が受けられる環境づくりを進める。
 - ・特別の教科道徳を中心にしながら、すべての教育活動の場を捉えて教職員及び児童の人権感覚を磨く。
- 4 体力・健康安全面
 - ・生涯スポーツを視野に入れた教科体育の充実を図るとともに、保健指導や食育を通して、自分の体や健康に関心をもって生活できる児童の育成を目指す。
- 5 その他
 - ・学校、保護者、地域の相互の連携をさらに強化し、歴史と伝統のある本地域の教育力を生かすとともに、地域の思いに応える学校づくりを進める。

